

かめのり大学院留学アジア奨学生

月次報告レポート

(2021年6月)

1. 研究について

現在ウヴェ・フリックの『質的研究入門—“人間の科学”のための方法論』という質的研究手法について本をもとに議論したりする授業を受講していますが、自分の研究をどのように設計するかについて常に考えてさせるという点で、非常に興味深いです。自分の研究では、主に質的研究手法を使うと思われるので、多様な研究法の特性を知り、それを組み合わせたりすることで、より質的に豊富なデータを収集できるように設計していく必要があります。

量的研究では、もともと母集団全体を調査するのが理想的だが、現実では様々な制約から難しいため、サンプリングをし、それが母集団の代表となるか、というのが大事になってきます。ただ、量的研究の限界から出発した質的研究の特徴を見ると、無作為抽出(ランダムサンプリング)が多く使われる量的研究とは違って、無作為抽出による一般化可能性がすべての目標にはならない、ということでした。つまり、質的研究では、無作為抽出より、より良いインフォマント(事例)を確保することが大事であることとなります。実際に、本研究でもメガーソーラーが設置され、もしくは予定されている地域は数多く存在し、その中でどこを具体的な事例として扱うか、というのがまず最初の課題となります。まず、考えるべきことは自分が設定した研究設問が大事になるということです。自分の場合、現在の状況だけでなく、より歴史を遡って、地域の歴史性を見ていくことを目標にしています。そこには現実的な問題としての接近性だけでなく、社会全体におけるより豊富な物語が潜在している地域を選定することが大事になってくるので、その点を考慮しながら、フィールドを選定していく予定です。

2. 生活について

7月初めにはゼミで自分の研究課題を発表するとのことで、研究デザインをいかにしていくか毎日考えています。梅雨なので雨も多くふり、キャンパスまでの散歩は少し休んでいますが、3週間前からちょうど家でルッコラ、ミニトマト、ベビーリーフなどの野菜を栽培し始めました。毎日どのぐらい成長したか、を見るのがかなり楽しく、緑があることでかなり心は癒されています。